

「命のつながり」全身で表現

来月、神戸

菊本千永モダンダンスステージV

藤田佳代舞踊研究所(神戸市東灘区)の菊本千永が構成、演出、振り付けを担う「菊本千永モダンダンスステージV」が11月9日午後5時半から、東灘区民センターうはらホールで開かれる。新作を含む4作品を披露する。

「命の多様なあり方」を追求してきた菊本は今回、新作「across—わたしが生まれる」で、自身が生きること、どれだけたくさん人や生物が関わっているのか、命のつながりを表現する。

始まりの場面は交差点の雑踏。何かに導かれるように異界に踏み込み、不思議な体験をする。そして再び現実の世界に戻ってくる。

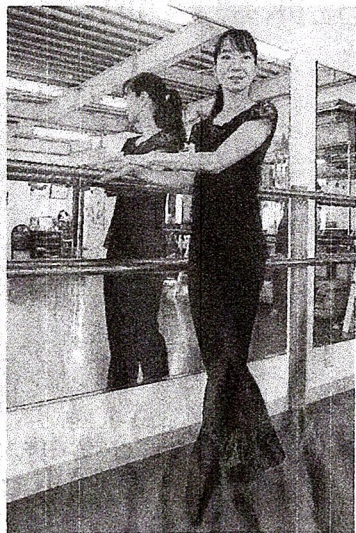
リトアニアのレカシウス、ジョージアのカンチェリ作曲の現代音楽を使用。客席前方のいすを取り払った空間を現実世界、舞台上を異界と見なし、時空を超えた物語世界を演出する。

再演のソロダンス「月の森にねむる」は一人目覚め、誰にも知られることなくまた眠りにつく、顧みられることのなかった命を踊る。

「カクレミノを編む」は幼虫がサナギ、成虫になるように、「変容」をイメージした作品。藤田が振り付けた「満ちる・10拍子のうた」は、出演者20人が気持ちを合わせ、手拍子のみで踊る。

菊本は「命をつなぐとは何か、考えて踊ってきた。たどり着いた今の思いを、余すことなく伝えたい」という。

3500円(前売り3千円)。同研究所☎078・822・2066 (片岡達美)



「経験を積み、効率のいい体の動かし方ができるようになった」と話す菊本千永
神戸市東灘区住吉本町1